

**放送日** 平成31年4月9日（火）

**担当者** 市長 上野 正三

おはようございます。市長の上野正三です。

平成最後となる平成31年度がスタートしました。

4月1日には、改正入国管理難民認定法や働き方改革推進法が施行され、10月には消費増税と幼児教育・保育無償化が始まり、職員のみなさんにとって今まで以上に仕事が増えることにもなります。

また、新しい仕事や、新しい仲間、そして新しい立場など、様々な変化があるかと思いますが、今年度もよろしく願いいたします。

私が、市政を担わせていただいてから13年が経過し、市長4期目も折り返しの年となります。

これまで市政運営にあたっては、多くの人が夢や希望をもって、北広島市に住み、「住み続けたい」と思うまちを目指し、「子育て環境の充実」「定住人口の増加」「地域経済の活性化」などを重点課題として、全力で取り組んでまいりました。

本年5月1日には、新しい天皇のもと、新元号「令和」へと変わり、新たな時代の幕開けとなる年であります。

当市においても、新たなまちづくりに向けた一歩を踏み出す「始」の年であると考えており、災害の復興に向けた取組やボールパーク開業に向けた取組など、新たなまちづくりに向けた一歩を踏み出す年でもあります。

そして、今年度は、第5次総合計画に掲げる「希望都市」「交流都市」「成長都市」を実現するため、総仕上げに向けた重要な年となります。

また、人口減少対策を目的に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の最終年となり、計画に掲げる目標の達成に向けて、各種施策の取組を進めてまいります。

職員の皆さんは、次代を担う子どもたちや市民の皆さまの笑顔があふれ、将来にわたって着実に成長するまちを目指して、全力で市政運営に取り組んでいただきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが、心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月10日（水）

**担当者** 副市長 道塚 美彦

おはようございます。副市長の道塚です。

先ごろ、新しい年号「令和」が発表されました。平成の時代も残すところ20日となり、改めて「時の流れ」を感じるところであります。

若い世代の皆さんには、元号より西暦の方が馴染みは深いかもしれませんが、この元号、今では世界で日本だけに残っている、歴史的にも文化的にも貴重なものと言ってもいいかもしれません。

平成の期間は、30年と113日間。昭和、明治、応永に次いで4番目の長さです。この30年余りの平成の時代に、北広島市においても多くの出来事がありました。平成8年の市制施行により、道内の中核都市としての仲間入りを果たすことができました。

それに併せて芸術文化ホールや図書館、東西連絡橋、エルフィンロードが次々とオープンし、文化・スポーツ都市への歩みも始まり、新庁舎も建て替えられました。

大曲第3工業団地や輪厚工業団地、そして大型商業施設の誘致により、まちのイメージも大きく変わりました。

行政システムも、地方分権、市民協働、地方創生と根幹から変わり、ワープロが主流であった事務も、パソコンなしには考えられないほどにICT化が一気に進みました。

この30年で、平成初期には考えられないほど、急速な変化が起きました。

「温故知新」「古きをたずねて、新しきを知る」とは、よく言われますが、平成を振り返ってみると、過去から何かを得て、新しい時代を創造したり、思い描くことは、そう容易いことではなくなっていると感じます。

新しい「令和」の時代が、どのような社会、時代になるかは、全く想像すらできませんが、皆さんの智慧と英知をもって切り拓くことができれば、素晴らしいまちづくりに、必ずや繋がることと確信をしています。実際、平成の時代において、「ボールパーク」という萌芽が育っています。

この「ボールパーク」という萌芽を大きく成長させ、まちのシンボルとなるよう、実現に向けて皆さんで取り組んで頂きたいと思います。

職員の皆さんには、「平成」の時代に築き上げたものを礎に、これから迎える「令和」の時代を価値あるものとするため、既存の枠に捉われず、チャレンジ精神をもって積極的に業務にあたって頂きたいと思います。

皆さんにとって、「令和」の時代が素晴らしい時代となることを期待しています。気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月11日(木)

**担当者** 教育長 吉田 孝志

おはようございます。教育長の吉田孝志です。

平成30年度は、台風や地震による被害があった一方で、ボールパークの建設が決まるなど、北広島市にとって大きな動きのあった年でありました。また、新庁舎で仕事を始めて丸2年が経とうとしており、5月からは新元号「令和」となります。上野市長のもと、新たな気持ちで、ともに北広島市のために頑張りましょう。

さて今日は、年度当初に、公教育を担う学校の先生方に心がけてほしいこととしてお願いする「教職員としての5つの目＝視点」に関わってお話したいと思います。

その1つ目の視点は、「子どもを見る目」をしっかりと持つということです。先生方が指導に当たる際には、何よりも客観的に、かつ深い愛情をもって、子どもの学習や生活の実態を把握し、個に応じた手立てを講じなければならないと考えるからであります。次に、「教材を見る目」を養うということです。眼の前の教材を活用して、子どもたちに何を、どのように学ばせるかなど、教育の専門家として、教材を活かす知見と工夫や戦略が必要となるからであります。3つ目は、「地域を見る目」を大事にするということです。学校教育は地域の理解と協力があってこそ、教育成果が得られるものです。コミュニティ・スクールの取組をはじめ、地域と互恵関係を築く姿勢が求められます。次いで、「未来を見る目」を常に備え持つということです。子ども一人ひとりの自己実現を図るために、夢や希望、目標を持って前向きに生きる力を育み、キャリア教育＝北広島市では大志学に取り組むことが重要であると考えてからであります。5つ目の視点として、「自己を見つめる目」を持ち続けてほしいということです。常にPDCAサイクルを意識し、学校改善や自己啓発に努め、子どもたちのために、そして自分自身の資質向上のために、学び続ける教職員であってほしいとの願いを持つからであります。

この「5つの目＝視点」は、市役所職員を目指す姿にも相通ずるところがあるように考えています。

「子どもを見る目」は「市民ファーストの視点」、「教材を見る目」は「政策・施策・事務事業をブラッシュアップし続ける視点」、「地域を見る目」は「市民・地域とともに歩み、協働する視点」、「未来を見る目」は「まちの発展と未来像を描き、実現する視点」、「自己を見つめる目」は「市所職員としての使命感や自らの専門性、人間性を磨き続ける視点」に通じているのではないのでしょうか。

改めて、市役所職員が一丸となり、市民のために、まちの発展のために、一層、「チーム北広島」として業務に邁進（邁進）していかなければならないと考えているところでもあります。新年度も、小中一貫教育の推進をはじめとする本市における教育行政へのご理解とご支援につきましてもよろしくお願い申し上げます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員の皆さんが心に懐く大志を結集し、本日も1日明るく元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月12日（金）  
**担当者** 企画財政部長 川村 裕樹

おはようございます。企画財政部長の川村裕樹です。

企画財政部も新採用2名を加えて新たな気持ちで新年度の業務をスタートいたしました。

昨今のまちづくりを語る中で、「少子高齢化による人口減少」という言葉が多く出てきます。

また、この事案に対して様々な対策が出ておりますが、実際に暮らしている人にとってどれだけ実感として感じているのか、あまり感じていないというところが正直なところだと思っています。

人口減少によって、税収が減少し、地域コミュニティが衰退し、空き家が増え、公共交通も撤退、さらには公共施設も過剰となり、これらへの対策がほぼ全ての自治体において最重要課題になっています。

一方で、人口減少対策を議論する、また政策を進める中では、総論賛成、各論反対の構図がよく見られます。

誰しも、この将来に対する現状は何とかなければいけない、何とかしようと理解していただけますが、より自分に近いところのこれまで享受してきた利便性に関わることなどは理解していただけないことがあります。

日常の生活を送る中でごく当たり前で自然だと思えます。

私たち、職員はこのまちを次の世代にしっかりと繋げていかなければなりません。そのためにも、現状をしっかりと分析・認識し将来に向けて必要な投資を我々の世代で責任をもって行っていく必要があると思っています。

こう言うのは簡単ですが、将来に向けたまちづくりに対する考え方をぶれずに、組織は違っても職員一人一人が様々な角度、立場から語れることが大切なことだと思っています。

与えられた時間は全てにおいて共通です。

私も、今年度をスタートするにあたり部長としてその職責を果たすよう、これまで述べてきたことを念頭に日々業務にあたってまいります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月15日（月）

**担当者** 総務部長 中屋 直

おはようございます。総務部長の中屋です。

7日に執行された北海道知事選挙、北海道議会議員選挙に続き、21日執行の市議会議員選挙が昨日告示されました。投開票事務に当たられる職員の皆様には引き続きご協力をお願いいたします。さらに、ゴールデンウィーク期間中の5月2日は開庁し、一部窓口業務を行います。連休中にも関わらず担当される職員のご協力を重ねてお願いを申し上げます。

さて、今年度、22名の新人職員が入庁しました。1週間の新人研修ののち、現在は元気に各部署で頑張っていることと思いますが、諸先輩方には早く職場になれ、戦力として活躍できるよう、特段の配慮をお願いいたします。4/1現在、全職員474名のうち、消防職を除く職員の年齢構成を見ると50歳代が25%、40代が20%、30代30%、20代25%となっております。35歳以下の職員数で見ると実に45%の割合となります。平均年齢も10年前から5歳若返り、39歳。男女比も80:20から75:25と女性職員の比率も高くなってきている状況にあります。これは、職員の大量退職を迎えた時期以降、今年度採用の22名も含め、これまでの10年間で210名の職員採用を行ってきた結果であり、職員の若返りが急速に進んでいる状況にあります。

これからボールパーク構想の推進、災害の復旧、多様化する市民ニーズや複雑化する制度などへ対応していくためには、世代間の縦のつながりと各部局の横のつながり、連携がさらに重要となってきます。若手、中堅、ベテランと職員が一丸となって、北広島市役所の「組織力」をさらに高めて行きたいと思っております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月16日（火）  
**担当者** 防災危機管理担当部長 米川 鉄也

おはようございます。総務部防災危機管理担当部長の米川鉄也です。私が所属する部署は、防災、防衛、災害復興の担当として今年度新設されました。頼もしい10名の職員に支えられ、力を借りながら、北広島市の発展と安心安全なまちづくりを実現するため、初代部長として日々業務に取り組んでおります。

さて、朝のスピーチですが、毎日しっかり聞いている職員は何人いるでしょうか。自分に関係のある上司や同僚、友人のスピーチは聞くとと思いますが、それ以外ではどうでしょう。

自分がスピーチ担当として携わったときに、周りがざわざわさしていたら、きっと寂しい悲しい気持ちになると思います。職員同士そんな気持ちにさせぬよう、是非、スピーチの担当者をリスペクトし、明日からのスピーチに耳を傾けて下さい。

何かしらの縁があって、469名もの人間が北広島市職員として一緒に働いています。一人一人が一人一人をリスペクトすることで、組織は確実に前に進みます。

元号が変わり、働き方も変わり、人の価値観もどんどん多様化の一途をたどります。人間関係が希薄と言われる時代の中で、お互いにリスペクトし合い、存在価値を認め、自己有用感をくすぐることで、北広島市役所の一体感はより高まります。

災害復興には職員皆さんの力が必要です。

ボールパークにも一丸となった職員の力が必要です。

見せましょう。北広島市職員の底力を。

見せましょう。北広島市の良さを。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月17日(水)  
**担当者** 市民環境部長 高橋 直樹

おはようございます。市民環境部長の高橋です。

今年のスピーチは、昨年まで、担当する業務内容をお伝えしてきましたので、今日はこれまでの経験等から感じていることをお話ししたいと思います。

私は、平成5年4月に市制施行前の広島町に入庁し、早いもので、今年27年目を迎えています。

最初に配属されたのは、農政課で5年間在籍し、次に財政課で6年、児童家庭課で5年、そして総務課で5年と課長職になるまでは、どの部署でも5年以上在籍し、同期と比較しても少ない異動でした。このような中、大事にしてきたことは、各部署で自分が担当する業務以外の業務についても、できるだけ関わり、知ることを意識してきました。本市の職員数は、近隣の市と比較しても少数精鋭と言われているとおり、各部署の業務範囲は広いと思います。その中で、例えば、問い合わせがあった時に、担当がいなければ何もわからないのではなく、簡単な内容だけでも知っていれば十分に対応でき、また、自分自身の知識の向上にもつながると思っています。

また、今年も多くの新入職員が入庁しましたが、私が新人職員だった約30年前に、先輩職員から言われたことが今も心に残っています。「一年目は、わからないことがあれば何でも聞いてください。ただし、二年目からは、自分で調べるなどして、相談するときには、自分の意見や意思をもって相談してください。」と言われたことです。確かに、一年目は右も左もわからず、何をどうすればよいのか具体的な指示や判断等を求めてもしかたがないと思いますが、一年間でたくさんのことを学び、様々な経験をすることで成長し、二年目からは、一人前の職員となることができるようアドバイスを受けたと思っています。ぜひ、今年入庁した職員の皆さんも、先輩職員が嫌がるくらいたくさん質問をして、多くのことを学んでいただきたいと思います。

最後に、私はこれまでに、市町村アカデミーの研修や、平成17年度には文部科学省へ1年間、研修派遣として貴重な経験をさせていただきました。その際に学んだことは、研修等で学ぶ知識はもちろんですが、他の自治体の職員や国の職員とのつながりが大事な財産だと思っています。様々な業務を進めて行く中、人とのつながりは、困った時に限らず、刺激を受けることも多いと思います。職員の皆さんには、積極的に研修等に参加し、多くの人とつながりを持ってほしいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月18日(木)

**担当者** 保健福祉部長 三上 勤也

おはようございます。保健福祉部長の三上勤也です。

3月下旬に市内最長寿であった明治44年生まれの女性がお亡くなりになり、新たな最長寿は大正元年生まれの106歳の女性となりました。お気付きの方もいらっしゃるかと思いますが、明治生まれの市民がいなくなりました。新しい元号が決まるなど、時代の流れの中で少々寂しい出来事がありましたので、報告をさせていただきました。

さて、「我が事・丸ごと」地域共生社会という言葉を目にしたことがあるかと思います。高齢者、障がい者、子ども、誰もが「支える・支えられる」という関係ではなく、地域住民が「我が事」として主体的に取り組むための仕組みを作り、地域全体で支え合う体制づくりを進めるという政策です。

かつての古き良き日本と呼ばれた時代においては、人間関係が濃厚で、地域・家庭・職場といった人々の生活の様々な場面において、支え合いの機能が存在していましたが、核家族化や人口減少が進み、人との付き合い方が希薄になるなど、支え合いの気持ち弱体化してきたと言われています。

筋ジストロフィーという難病を患いながら、自立生活を続けた主人公とボランティアの生き様を描いた「こんな夜更けにバナナかよ」という実話をもとにした映画が昨年末に公開されました。この映画の広告の見出しは「支え合いってキレイゴトじゃない。ぶつかり合いなんだ」となっていました。主人公は、一人の人間として存在を証明するために、容赦なくあらゆることを要求したため、ボランティアの葛藤が、まさに「ぶつかり合い」として描かれていました。

主人公を演じた大泉洋さんは、「自分の子どもに、できないことは人に助けてもらいなさい。そして、人に助けを求められたら、それに応えられるような人間になりなさい。」と教えようと思う。とコメントしていました。

できないことをできないと言うことは、恥ずかしいことという考え方を持っている人がいると思いますが、できないと胸を張って言える環境を作ることができれば、手伝ってくれる人はたくさんいるので、自ずと地域全体で支え合う社会が実現できるのではないかと思います。

電車で高齢者や妊婦さんに席を譲ったり、車いすや白い杖をお持ちの方が困っているのを見かけたら助けてあげるとと思いますが、そうした行動の積み重ねが地域共生社会の実現につながると思いますので、ほんの少しで良いので、自分のためではなく、みんなの笑顔のためにあなたの時間を使ってみてはいかがでしょうか。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。



**放送日** 平成31年4月19日（金）  
**担当者** 子育て支援部長 仲野 邦廣

おはようございます。子育て支援部の仲野邦廣です。

皆さんは仕事を始めて、「報・連・相」という言葉を一度は聞いたことがあると思います。一般的に報は、「報告」部下が上司の指示に取組、途中経過を報告すること。連は、「連絡」自分の意見や憶測を含めない状況報告。相は、「相談」自分だけで業務上の判断が困難なとき、上司に意見をきくこととされています。皆さんはこの「報・連・相」を実践できていますか。では、なぜ必要なのでしょう。上司が個々の人達に仕事を割り振ったとき、皆が好き勝手に動き、しかも何を考えているのかわからないような状況では、仕事を取りまとめることも状況判断もできません。そのため、様々な損失が生じることとなります。また「報・連・相」を行うことにより、その時点で自分が間違えたことを考え、行っていたとしても、報告した時点で上司が間違いを指摘してくれます。普段忙しそうにしている上司に何度も報告に行くのは、かえって仕事の手を止めてしまいそうで迷惑になってしまうのではなどと考え、ためらってしまうということは、よくあると思いますが、特に悪い報告、事故報告などは相手の状況を考慮するよりも、まず相手にその情報を伝えることが最優先です、そこは忘れないようにしてください。では、上司を前に何から、どう話したらよいのでしょうか。報告の基本は、結論から話すことと簡潔明瞭であること、この2点です。必要な情報だけを簡潔にまとめ、まず結論を伝えましょう。そうすれば、相手も聞きたいことだけを質問するはず。質問がなければ、すぐ次に進むことができます。誰だって怒られたり、文句を言われることは嫌だと思いますが、報告せずにもっと大きな事故につながるくらいなら、一時怒られることくらい大したことはありません。そういう心構えで「報・連・相」を実践できる職員になってください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月22日（月）

**担当者** 建設部長 平川 一省

おはようございます。建設部長の平川です。

これから、まちづくりについてお話しさせていただきます。

まず、本市の人口は、昭和45年の道営北広島団地の造成を契機に人口が急増し、平成19年の61,199人をピークに、減少へと転じ、平成31年3月末には、58,462人と約2,700人が減少しております。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今後、人口減少が続き、2040年には、46,784人、また、日本創生会議推計では、44,795人と推計されており、税収の減少、職員数の削減、状況次第では市街化区域から逆線引きで、市街化調整区域への編入など、人口密度の低下による、道路や公園、上下水道などの公共施設の維持管理など多くのことが懸念されています。

このことから、本市においても、総合計画や総合戦略に基づく施策などを数多く実施し、努力しているところですが、効果は限定的であり、人口減少への流れを変えることが非常に難しい状況となっています。

このような状況の中、昨年10月に建設が決定した日本ハムファイターズのボールパーク構想は、国が掲げる「未来投資戦略2017」で、地域経済好循環システムを構築する事業として、スポーツ、文化芸術、観光、産業が一体となり、新たな価値を生み出し多様な世代が集う交流拠点として国の施策に合致し、2023年に開業することになりました。

このことはボールパークを核とし、また、ボールパークを活用した市全体の街づくりを進めることが本市に課せられた大きな課題であり、大きなチャンスであります。また、このチャンスを最大限生かすためにはボールパークの担当部局だけではなく、直接ボールパークに関連しない業務であっても、市民はもちろん、市外から来られた人に対して、真摯に対応し、北広島市の良さを感じてもらえるよう市職員一人一人の力を結集しなければならないと思います。

ここ数年は、10年先、30年先の本市の未来を左右する重要な期間であることを踏まえ、努力してまいりたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月23日（火）

**担当者** 経済部長 砂金 和英

おはようございます。経済部長の砂金和英です。

経済部は農政課、商工業振興課、観光振興課の3課で、農業、商業、工業、観光、企業誘致などに取り組んでいるところです。本市の事業所数はおよそ二千、従業者数はおよそ二万六千人となっております。本年度は、理事が新たに加わり、観光協会や観光施策、企業誘致などの諸課題について着実な対応を図っていくこととしています。

農政課では、農業の担い手の育成、グリーン・ツーリズムや6次産業化、農業と観光を融合させた取組である農泊などについて、商工業振興課では、企業の魅力発信、買物不便者対策、創業支援の促進、地域の活性化、人材の確保、雇用の安定、外国人の就労、労働環境などについて、観光振興課では、都市型観光の推進、観光拠点の整備、インバウンド・外国人観光客の誘致などに取り組んでまいります。

また、2023年のボールパークの開業を一つの目標点として、さらにその先も見据えながら、ボールパークと北広島の地域経済の活性化について、互恵的關係がしっかりと築かれていくよう、本市の地域資源や魅力を再確認し、新たな経済活性化の取組について関係者と連携して進めていかなければならないものと考えているところであります。中山久蔵翁、和田郁次郎翁達が切り開いた廣島村は、赤毛による水田作付が道内1位であった純農村時代の明治から、今では農業、商業、工業、観光など、様々な経済活動が堅実かつ安定的に営まれる北広島市へと成長してきました。これから先、事業者の皆様が、それぞれの持ち味を活かし、お互いが北広島の地域を中心に連携をする農商工連携等を進めることが、さらなる地域経済の成長に大きな効果もたらす可能性があるものと考えております。様々な事業者の皆様との情報共有と、連携する機会を少しでも多く積み重ねていくことができるよう努め、市が目指す、活気ある産業のまちを目標にして経済部がこの1年の取組を進めていきたいと考えているところであります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月24日（水）

**担当者** 経済部理事 水口 真

おはようございます。経済部観光・企業誘致担当理事の、水口真です。

日本の人口は30年後には1億人を割るかもしれないと言われています。平成30年の1年間で全国では約27万人、減少しました。千歳・恵庭・北広島市を合わせた人口が約23万人ですからそれ以上の人口が消滅したことになります。こうした中で、人口減少による経済喪失を補うものが観光交流人口です。観光庁によると定住人口1人当たりの年間消費額（生活費）は約125万円であり、この金額は、旅行者の消費に換算すると国内の日帰り客80人分、宿泊客25人分、外国人旅行者だと実に8人分だそうです。世界的にも日本の観光は注目されています。2017年版観光競争ランキングでは日本は136カ国と地域のうちスペイン、フランス、ドイツに次ぐ過去最高の4位に躍進しました。調査項目ごとの比較では、安全安心面や保健衛生面が引き続き順位が高く、陸上交通などの社会基盤整備が評価を上げてきています。半面、観光環境の維持保全に係る政策や自然資源の魅力周知などの項目が低い評価となっています。

今、経済部が観光に重点を置き施策を進めるのはこうした背景があるからです。旅行・観光には、経済を動かす力、文化を育む力、交流を広げる力、健康寿命を延ばす力など大きな活力があります。これにグリーンツーリズムやエコツーリズム、ゴルフツーリズム、サイクルツーリズム、産業観光など多様なツーリズムを組み合わせることで新しい価値が生まれ地域活性化につながると考えます。さて、今年度は観光行政の役割を明確にします。JR駅近辺での観光案内のあり方を検討します。観光を通した市民と企業の連携を支援します。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月25日(木)

**担当者** 水道部長 藤縄 憲通

おはようございます。水道部長の藤縄です。

皆さんは昨年末に、日本の水道が民営化されるというニュースをご覧になった記憶はあるでしょうか？これは水道法の改正により官民連携の一つの方法として、水道事業が施設を保有したままで民間事業者に施設運営権を設定できるコンセッション方式を導入できるようになったというものです。

このコンセッション方式は、都道府県を一つの単位とするぐらい大きな組織を想定しており、本市が直ちに導入することはありませんが、このような官民連携が話題に上るのは、現在、日本の水道事業が人口減少に伴う料金収入の減少や水道施設の老朽化による更新費用の増大など厳しい状況にあるからです。当然、経営が厳しくなると水道料金の改定が必要となり、近年は釧路市や千歳市などで料金値上げが実施されています。

ところで皆さんは、北広島の水道は高いと言われますが、本当はどうなのかご存知でしょうか？

北広島市の水道料金は道内35市の内、安いほうから19番目で、ほぼ全道の平均料金なのですが札幌市と比べると約1割高くなっています。これは北広島市が浄水場を持たず石狩東部広域水道企業団から買った水を供給しており、水の使用量が減っても仕入れの費用を抑えることができないことが大きな理由となっています。そのため、今後の安定した水道事業経営のためには他の水道事業との広域化や官民連携策など事業の効率化により支出を抑える他、水の使用量を増やすことを考えなければなりません。その意味からもボールパークによる水需要の拡大に大きな期待を寄せています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成31年4月26日（金）

**担当者** 会計室長 広田 律

おはようございます。会計室長の広田です。

会計室の主な業務は、物品購入や工事等の入札・契約事務、建設工事等の審査・検査に加えて、会計管理者の所掌する出納事務があります。地道で慎重さを要するものばかりですが、行政の事業には必ず予算の執行が伴いますので、会計室の業務なくして行政は進みません。逆を言えば、行政に携わる職員全員が、契約事務や会計事務に精通していなければならないということです。

何かを成し遂げるとき、最初にミスをする、その影響が最後までついて回ることがあります。会計課での経験でいうと、支払いのときに見つかった誤りの原因が、実は予算要求や支出負担行為まで遡るといふ事例が度々あります。契約や支出負担行為を遡って修正はできませんので、事務にあたっては担当職員から決裁権者までの間にチェックを怠らないことが、後の誤り防止につながります。また、職場内で見つけることができたはずなのにとおもものもあります。疑問に思ったけど周りが忙しそうで聞けなかった。確認したかったけど上司の業務だったので指摘できなかった。等々職場内でのコミュニケーションがとれていれば解消できたミスも沢山あります。コミュニケーションの重要性については、様々な場面で語られますが、これらを目の当たりにすると、その大切さと難しさを改めて痛感します。さて、今日が平成最後の朝のスピーチです。月が変わると元号も変わり、10月には消費税率の改正も予定されています。設計書や契約書、経理伝票の内容や記載事項に変更となる部分が多くなりますので、今一度、職場内での声掛けを密にして、誤りがないかしっかりチェックをしてください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。